

セミナー通信

V o l . 1 5 4

西村セミナールーム

主宰 西村 恵子

やる気の証明

「やる気が大事」—当たり前のことです。みんなわかっています。この仕事に長年従事していると、その大切さを嫌と言うほど痛感します。どんなに良い授業や教材を与えても、本人に「やる気」がなければ吸収していきません。逆にたとえ能力が少しばかり低くても、本人に大きな「やる気」があった時、こちらの予想を超えて伸びていったという例もあります。

では、何でその「やる気」をはかることができるのでしょうか。中学校では授業中の発言回数をチェックするなどしていますが、表面的なものにすぎず無意味です。人の心の中というものは見ることはできません。「やる気」を形に表したものの、それが当塾では「パートテスト合格」です。努力次第のパートテストに毎回きちんと合格していれば、最低限の「やる気」はあるとみなします。ここで頑張りたいという意志だと受け止めます。ご存じのとおり唯一の通塾条件です。逆に合格できなくなったならば、意志がなくなったのだと判断し、辞めていただきます。

「やる気」のなくなった子を通塾させて月謝をいただくわけにはまいりません。「やる気はある」というのなら、口先だけではなく、きちんと証明して見せてください。

手前みそで申し訳ありませんが、我が家の次男は勉強が大嫌いで、当塾に入ったものの、1年の終わりには「今度パートで不合格になったらクビだ。」と宣告されました。その後、学校のテスト勉強は相変わらずやりませんでしたが、パートだけは卒業するまで合格し続けました。高校へ行ってからも勉強はしませんでした。ところが今、進みたい道を見つけてからは、嫌いな勉強にも自ら取り組んでいます。中学当時、勉強からは逃げたかったはずなのに必死で合格し続けたのは、13才なりに自分の中の何か、捨ててはいけないものを守ろうとしていたのかもしれません。

「やる気」の火は今は小さくてもかまいません。もちろん大きいにこしたことはありませんが、絶やさないよう、燃やし続けていくことこそ大切です。高校のことはよくわからなくても、“今、この目の前のパートに合格していくことは自分にとって大切だ”と感じるならば、誠実に覚えていってください。それは、自分の力を信じることに繋がります。

中学部は今日から新年度です。どの学年も面談で「やります。」という言葉はもらいました。その言葉がうそでなく、一人一人が力強い新たな一步をふみ出してくれることを期待しています。